

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Adverse obstetric outcomes in early-diagnosed gestational diabetes mellitus: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

妊娠初期に診断された妊娠糖尿病妊婦の産科合併症について

ユニットセンター(UC)等名: 福島ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Journal of diabetes investigation

年: 2021 DOI: 10.1111/jdi.13569

筆頭著者名: 経塚 標

所属 UC 名: 福島ユニットセンター

目的:

本邦の妊婦健診は妊娠初期、妊娠中期にそれぞれ1回血糖検査を行うこととなっております。本研究では、妊娠 24 週未満に妊娠糖尿病と診断された妊婦(早期診断型妊娠糖尿病)と、妊娠 24 週以降に妊娠糖尿病と診断された妊婦(後期診断型妊娠糖尿病)の、産科合併症について比較しました。

方法:

エコチル調査にて妊娠時点で既に糖尿病に罹患していた妊婦、妊娠初期に検査データから明らかに糖尿病と思われる妊婦、妊娠中にステロイド製剤を使用した妊婦を除外して、非妊娠糖尿病の妊婦 98,090 人、早期診断型妊娠糖尿病の妊婦 751 人、後期診断型妊娠糖尿病の妊婦 1,535 人を対象としました。早期診断型妊娠糖尿病、後期診断型妊娠糖尿病が、早産、低出生体重児、妊娠高血圧症候群の発症に与える影響について解析を行いました。

結果:

解析の結果、非妊娠糖尿病の妊婦をコントロールとした場合、早期診断型妊娠糖尿病の妊婦では 2.1 倍の妊娠高血圧症候群の発症リスクがあり、後期診断型妊娠糖尿病の妊婦では妊娠高血圧症候群のリスクが 1.7 倍であることが明らかになりました。早産、低出生体重児の発症リスクについては、明らかな関連は見られませんでした。

考察(研究の限界を含める):

早期診断型妊娠糖尿病の妊婦では、後期診断型妊娠糖尿病の妊婦に比べ、妊娠高血圧症候群の発症リスクが高いことが明らかになりました。本邦は、諸外国と異なり、妊娠初期と妊娠中期にそれぞれ1回血糖検査を行っています。妊娠中に 2 回妊娠糖尿病のスクリーニングを行うことの意義が長く問われてきましたが、今回の解析で、妊娠初期に妊娠糖尿病のスクリーニングを行うことで、妊娠糖尿病以外の妊娠高血圧症候群などの産科合併症を早期に予測できる可能性が示唆されました。本研究の限界点として、妊娠糖尿病の妊婦にどのような治療を行ったかについては考慮されていない点が挙げられます。

結論:

早期診断型妊娠糖尿病の妊婦は、後期診断型妊娠糖尿病の妊婦より、妊娠高血圧症候群の発症リスクが高くなることが明らかになりました。妊娠初期に妊娠糖尿病のスクリーニングを行うことは、その他の産科合併症予防に早期介入する機会を得るために意義のあることと考えられます。